

# 安心の番人

獣医師が足りない

④

北里大獣医学部(青森県十和田市)の大動物診療センター。診療実習中の学生たちが牛の胃に聴診器を当てて

## 少ない公務員志望

いた。「ゴ、ゴ、ゴ」が悪化していないか、胃の動きそのものが鈍くなっているか、音を頼りに調べる。

だが、彼女のように公務員を目指す学生は少ない。多くは加速するペットブームを背景

に、犬や猫など小動物を診る獣医師を志す。同大でも小動物希望が6〜7割を占める。

5年生の女子学生(23)は四国地方の酪農が盛んな地域で育った。最近に「牛がごろごろした」という。「犬や猫と同じ。おもしろく安らぐ」とほほ笑む。

将来は地元に戻り、牛や豚など産業動物を扱って殺処分する。費用

対効果を考えて治療をあきらめる場合もある。帯広畜産大(北海道帯広市)6年の女子学生(23)は「ペット診療では、なんとか生か

進む。北里大が昨年開設した小動物診療センターには、ペットの(陽電子放射断層撮影)など最先端の装置が並ぶ。伊藤伸彦・獣医学部長は「人間の病院と

変わりません」と話す。「人獣共通感染症や食の安全が叫ばれている中、十分な教育が行

医学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議」の出席者から、大学の獣医学教育に厳しい指摘が相次いだ。

とはいえない。特に若手が少ない(牧野壮一副学長)という。こんなエピソードもある。ある国立大で、学生が「将来、公務員に進みたい」と相談してきた。公務員獣医師の人手不足を知る教授らは歓迎したが、すぐに頭を抱えた。「だれが指導するのか」

# 教育体制も不十分

そうと治療に尽くすことができない。やりがいを感じる」と話す。

大手予備校の河合塾によると、今年度の16獣医系大学の偏差値は67・5と推計され

医学部に次ぐ難関だ。教育内容は二足の高小動物に重点が置かれ、ペットの高度医療に対応する設備投資が



指導の下、聴診器を当てながら牛の状態を診察する学生―北里大で、河内敏康撮影

どまり、「食の安全」など新たな分野を教える人材も仕組みも不十分だ。特に、国公立大は1学年30〜40人と小規模なため、指導者の確保も一筋縄ではない。大学構内に牧場から加工工場まで備える帯広畜産大でさえ「食の安全など公衆衛生分野を教える教員が十分

同会議委員の吉川泰弘・東京大教授は「教える人がいないから教えない、教えないから学生が興味を持たない。悪循環に陥り、社会のニーズと合わなくなっている。根本的に見直さなければ、国際的にも置いていかれる」と問題の根深さに危機感を募らせる。〓つづく